

○光陽地区タウンミーティング議事録（概要）

日 時：令和4年10月22日（土）

午後2時から午後3時15分

場 所：光陽小学校 体育館

出席者：61人

テーマ1 富山市が目指すスマートシティ

<主な説明事項>

- 1 コンパクトなまちづくりと課題
- 2 まちづくりのネクストステージ
- 3 コンパクトシティ政策の深化
- 4 （仮称）富山市スマートシティ推進ビジョン
- 5 既存のスマートシティ事業

【企画管理部の説明に対する質問】

なし

テーマ2 富山市電子回覧板アプリモデル事業について

<主な説明事項>

- 1 地域コミュニティの現状と課題
- 2 光陽地区の概要と取組み
- 3 富山市電子回覧板アプリモデル事業等の本市の取組み
- 4 行政相談窓口
- 5 マイナンバーカードの申請

【市民生活部の説明に対する質問】

・電子回覧版アプリモデルの災害時の安否確認ツールとしての利用についてお聞きします。日頃、高齢者の災害時の避難について一緒に考えたりしていた時に、これはとてもいいものだなと思ったのですが、この管理者というのは、町内会の役員になるのでしょうか。

(市民生活部長)

町内会ごとに管理者用の ID がありますので、町内会ごとに管理していただくこととなります。

・もしも、まだ避難できていない、助けを求めたいという方がいた場合、助けに行くのは町内会の方なのですか。

(市民生活部長)

この町内会アプリにつきましては、基本的には町内会ごとに申請していただいております。例えば今回、黒瀬町内会で申し込みされていますが、その黒瀬町内会の管理されている方で、かつ任意で（参加）されていると思いますので、参加されている ID をお持ちの方だけが知り得る情報となります。

助けてくださいという案内は、例えば黒瀬町内会に加入されてアプリを使っている方のみにはしかその情報は行きませんので、必然とそのアプリを使っている地区の役員の方や、ご近所の方などが助けに向かわれる、というのが現実的なところではないかと思われま。

・現在、避難の困難な方についての詳細な情報を市に報告していますが、情報を報告して、では実際助けに行くのは誰かということになった時に、民生委員はこんなたくさんの人（のところへ）は行けないという現実がありますが、情報がデジタル化されたというだけで、援助の方はまだこれから考えなければいけないということですね。

(市民生活部長)

これは、皆さま同士のコミュニティの中で助け合いましょうという前提のアプリですので、この情報が市に直接届くシステムではありませんから、お近くにいらっ

しゃる皆さまがまずは助けの手を差し伸べていただくことが先決になると思います。今後、全市的に広がっていけば、もしかするとそういった仕組みにも繋げていけるかもしれませんが、それはまだ先の話だと思います。まずはコミュニティ単位の、あくまでこのソフトを使った範囲の中での活用とお考えいただければと思います。

・この電子回覧版アプリの場合、例えば、市の広報にあるいろいろな催し物の案内で、(申込受付が) 先着順であるとき、たまたま自分の町内では配られるのが遅かったのもう(受付してもらえ)なかったということは、なくなるのでしょうか。

(市民生活部長)

そのようなシステムではございません。先ほど申し上げたように、あくまで一つの町内会の中だけのコミュニティの場として活用していただくソフトですので、他の方は誰もそのグループの中に入っていけないこととなります。例えば、LINEでは特定の皆さんでグループを作りますが、その町内会版だとお考えいただければと思います。

・アプリに関してですが、スマートフォン持ってないとできないのでしょうか。このアプリを見たいとしたら、どのくらいのコストがかかるのか教えてください。

(市民生活部長)

アプリを使う際はスマートフォンが一番便利ですので、スマートフォンを持ってらっしゃる方が、まずは対象となります。費用的には、まず導入にあたり初期費用が約6万円かかります。これは一回だけです。それに加え、町内会ごとに1カ月1,000円で、年間12,000円がランニングコストとしてかかります。個人としてかかる費用は、一人ひとり参加する参加しないは自由ですので、(参加する場合は)IIDあたり1カ月10円かかり、12カ月で120円ということになります。

・要するにスマートフォンなどを持たないと、何も情報が入らないということですね。今、この政権の中で年金は下がり、物価は上がり、低所得者はスマートフォン

さえ持てない時代に、このようなものを投入することはいかなものかと思います。

(市民生活部長)

そういったご意見があることも、私どもも承知しております。先ほど説明の中でも申し上げた通り、そもそもそういったところに課題がありますので、12 団体が使われる中で、例えばスマートフォンを持っておらず参加できないというような人に、それならば隣の人とその人の分も情報を一緒にしてあげましょうなど、どのような解決方法をされるかということ、実は我々としても探っている最中でありま
す。ですので、上手く行っている団体があれば、そうした情報もできるだけ出して
いきたいと思っております。一人ひとり持ち分が全然違いますので、それを重々承
知した上で実施させていただいております。

・私の住んでいる班は、若い方も多少はいますが、ほとんどが 71 歳以上で、光陽
校区の中でも限界集落状態です。その中でこのような取組みをされるのは結構なこと
だと思いますが、もう少し別の形で何か方法を考えていただければよいのではと
思います。

(市民生活部長)

いろいろな手法を試していきたいと思っておりますので、ご意見をいただければと思
います。

・地区センターへ個人で頼みに行きましたが、町内会長か何かを通じて、そこから
来てくださいと断られました。個人で(頼みに)行くのはダメだと言われたのです
が、あのようなところは個人で行ってもできないんですか。どのような組織になっ
ているのですか。(地区センターの)人間が多すぎるのではないですか。忙しい時
期に本庁から派遣したら、何人か人間を節約できるのではないのでしょうか。無駄な
ことばかりしていて。私は行きたくても地区センターに行かないんです。用事があ
っても、断られて行く気がなくなっていました。

(市民生活部長)

個人では行けないという施設では決してございませんので、その対応が悪かった

ことについては申し訳なく思います。一人ひとり来られるのは自由ですので、本当に申し訳ございませんでした。今後そういったことがないように、我々も指導してまいりたいと思います。

【その他意見交換】

・(地方卸売) 市場の後ろの土川に、人が通れるような橋か何かをかけてもらえないでしょうか。黒瀬地区はちょうど後ろにあって、両サイドを行くと、自動車に乗っている人はよいかもしれませんが、歩いていく人はずっと遠回りし、1km か 1.5km かの (距離が)、後ろに橋をかけてもらおうと 300m か 500m で終わります。何かそのような高齢者をいたわる方法はないのでしょうか。高齢者の人が結構いるので、そうすると車も乗れないし、ぐるっと遠回りしなくてはいけないので、なるべくなら近道できるようにと思っています。

(市長)

県道だったら県の橋、市道は市の橋、基本的にはそのように考えていただければと思います。土川に橋を架けてほしいということですが、今、富山市が管理する橋が約 2,300 橋あります。その半数以上が老朽化して架け替え、もしくは長寿命化の時期にきています。この予算は年々膨れ上がって、今、どの橋とどの橋を合わせて 1 本にしようか、どの橋を取ろうかなど、橋梁の措置について将来計画を決定して、これに基づいて進めておりますので、新しく橋を架けるといのは今のところ考えておりません。そういう橋が少なくなる分、人々が不便を感じるわけですから、なんとかしてお年寄りがその橋を通らなくても買い物や病院等に行きやすい道路環境や交通環境を整備していくなど、さきほどのスマートシティの取組みも行っておりますので、そのようなことを補完する政策も一方で考えてまいりたいと思います。

・昔、冬にたくさん雪が降った時、私の町内の融雪装置が壊れ、市に除雪してくださいと電話したら、そちらの融雪装置は市か何かの補助をもらって (敷設しているから)、できればそちらで (除雪してください) ということだったのですが、壊れ

た時ぐらい（除雪して）もらえないのですか。

（市長）

融雪装置につきましては、敷設する時に町内会で管理組合等を作っていただいて、敷設工事をされる前、最初に敷設される時に補助があります。それで、今おっしゃったように、ちょうど故障が多くなってくる、要はポンプの入れ替えや、配管の敷設替えの時期にやってまいりましたので、入れ替えについても補助が欲しいと数年間要望を受けておりました。鋪田議長等から、そのような問題点の指摘をいただき、何とか入れ替え等の修繕についても補助するよにということだったので、その補助も行うようにしました。基本的には融雪装置が付いているところは融雪で、融雪装置が付いていないところは機械除雪、というすみ分けは、今おっしゃった通りです、その通り行っております。

二冬前のように、どうしようもないぐらい、融雪も全く機能しないというような雪もありますので、町内ご自身のご努力でどうしようもないときは、市の機械による除雪、トラックを入れるなりして排雪するということも行っておりますので、ケースバイケースだと考えていただければ結構だと思いますのでよろしく願いいたします。

・（富山市公設地方卸売）市場において、井戸を 80m ほど掘るということですが、私の町内はちょうど（市場の）後ろくらいにあり、（水中ポンプの深さが約）35m となっています。（水位が大幅に下がった後、）深さ 19m まで水位が戻らないと（水中ポンプが）復帰しない構造になっているので、（市場で水を汲み上げられて水位が下がった後、深さ 19m まで再び）水位は上がるのか上がらないのか、どうなるのかお聞かせください。

（市長）

基本的に（深さ）85m の水脈は常願寺川の水脈で、この辺の色々な工事に使っている地下水脈の水脈帯です。（深さ）35m は飲料水や融雪に使っているような水脈帯ですので、基本的には干渉しません。同じ場所であっても関係のない水脈だと捉

えていただければよいと思いますが、今のご意見は私も心配ですので、念のため確認させていただきたいと思います。

(後日回答)

深さが 80m と 35m の井戸では異なる地層から取水するため影響は出ないものと考えています。

また、地下水位の低下については、地下水の地中を流れる水のため地下水位がもし一時的に低下しても回復します。

今後、地下水位低下が原因で井戸から水が出なくなった場合には、市場における散水の一時停止などの対応を行うことも検討しています。

市場再整備事業における井戸水の取水量は現在の市場と同水準となるように計画しています。そのため、市場再整備で井戸の水を掘ることで過剰に水をくみ上げるといったことはありません。

また、深さ 80m の深井戸とし、交互散水方式の消雪設備を採用して節水対策に努めるなど、市場周辺の井戸への影響が出ないように計画しています。

<回答担当課> 農林水産部 地方卸売市場

※発言の一部を整理して掲載しています(広報課)